

各関係機関団体の長  
殿  
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所

### 水稻の葉いもちの発生状況について

本年は県内の一部において育苗期に葉いもちの発生が多い地区がありました。罹病苗の本田への持ち込みや梅雨期の降雨により今後の発生が懸念されます。このため、本病発生の現況をお知らせしますので、防除対策の参考にしてください。

#### 速報第 5 号

1 対象作物名 水稻

2 病虫害名 葉いもち

3 発生地域 県下全域

#### 4 発生現況と今後の予想

(1) 7 月 2 半旬調査の結果、発生量及び発生ほ場率は平年よりやや多かった。

発生株率 1.3% (平年 0.6%、前年 0.3%)

発生ほ場率 7.0% (平年 4.6%、前年 8.1%)

(2) 福岡管区气象台が 7 月 13 日に発表した九州北部地方の 1 か月予報によると、気温は高い確率 40%、降水量、日照時間はいずれも平年並の確率 40%と予想されている。このため本病の発生が特に低下する要因がないと考えられる。

(3) 本県においては葉いもちは例年 7 月 5 半旬に急増し、8 月 2 半旬にピークとなる(図)。

本年は一部地域で育苗期に本病が発生し、また移植後降水日数が多く、本病の発生に好適な条件となっている。これらのことから、今後本病の発生に注意が必要である。

#### 5 防除上注意すべき事項

(1) 育苗期における本病の発生状況や育苗箱施用剤の有無など、ほ場によって発生状況が大きく異なるため、必ず本田での発生状況を確認する。育苗期に本病が発生した地域では、特に、初発生に注意する。

(2) 葉いもちの発生が認められたら、直ちに防除を行う。降雨が続き、地上散布が困難な場合は早めに粒剤の施用を行う。本病原菌は孢子形成量が非常に多いため、病斑数が少ない場合でも大量の孢子が飛散する。そして初発生後約 5 日ごとに新たな病斑が形成され、大

量の胞子が飛散することとなる。このため初発生時の防除は特に重要である。

(3) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する。

(4) 今後の発生状況については、防除所ホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。

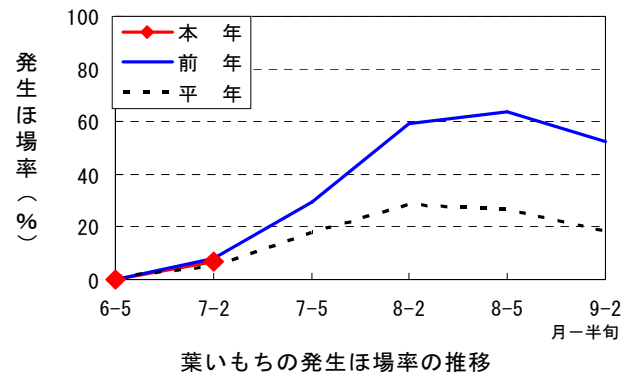
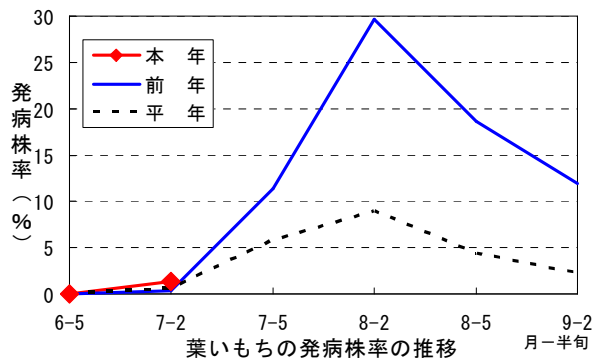


図 本年の葉いもちの発生状況及び前年・平年の発生推移